

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2770300867		
法人名	フラッシュ日乃出産業株式会社		
事業所名	グループホーム日乃出(2階)		
所在地	大阪府寝屋川市宇谷町10-1		
自己評価作成日	平成 29年 3月 6日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人を中心とした規則にはめないケア。本人の目線で、日々より良い生活が出来るように取り組んでいる。四季折々の花が楽しめる緑豊かな日本庭園、自然に触れ合う花作り、森林浴、家庭菜園と様々な場面で心地よい時間を過ごしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2770300867-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、公務員と民間企業での経験を活かして、地域への貢献を考え設立したグループホームです。寝屋川市で一番最初に設立されたグループホームで、見学者の受け入れ等、先駆的な役割を果たしてきました。敷地内には、四季折々の花や果物の収穫が楽しめる緑豊かな広い庭園があります。敷地内の庭園や畑で収穫された季節感あふれる食材を使った食事は、利用者の大きな楽しみのひとつとなっています。毎日が笑顔とふれ合いであふれた家をめざしたいとの管理者の思いが込められた「笑顔とふれあいの家」の理念を、職員は共有し実践しています。管理者は、「普通の生活」を大切に、日常のケアは、利用者・家族の立場に立って考え、自然な形で関わることを職員に伝えています。利用者一人ひとりに大切に關わる管理者と、その後ろ姿に学んでいる職員が支える利用者の暮らしは、自宅で一家団樂のひとつを過ごしているような、穏やかな毎日のグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を掲げ、各会議時・朝礼時に唱和している。	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を掲げ、職員間で共有し、笑顔があふれる暮らしの支援を実践しています。理念は、毎日朝礼で唱和しています。一緒に唱和する利用者もいます。また、会議でも理念の確認をおこなっています。 面会簿の表紙に理念を書き、家族にも理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩コースは、地域公園を中心に行っている。小学校の運動会イベントに応援メッセージを届けている。子供110番の設置。	ホーム周辺は、高層マンションや物流倉庫が立ち並び、一般の民家は少なく、自治会は立ち上がっていない状況です。隣の小学校の児童から敬老会に手紙をもらい、お礼として、運動会には応援プラカードを届け、交流を図ってきました。隣のマンションの子ども達に通学路で出会ったら挨拶を交わしています。 管理者は、地域包括支援センター主催の、認知症やグループホームに関する研修の講師を務めています。研修では、事業所見学も受け入れました。	これまでも時折されてきたように、ホームで出来た栗や野菜のおすそ分け、職員の人脈による交流等を参考に、この地域でのつながりが途切れることのないよう、今後、隣の小学校との積極的な交流に取り組むことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	電話等での相談に応じている(入所希望者に限らない)。 当施設内において、認知症サポーター研修を行った。 包括主催の出前講座(施設見学等)の協力も行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者家族・近隣施設職員・包括支援センターを招き、会議を開いている。意見や情報の交換を行い会議録も回覧している。ご家族にも配布を行い、情報の共有を図っている。	利用者家族、地域包括支援センター職員、近隣施設職員、管理者、職員のメンバーで構成されており、2ヶ月に1回開催しています。ホームからは、行事、利用者の状況、人事等の報告を行い、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。家族が参加しやすいように土・日に開催する工夫もしました。開催案内と議事録は家族に送付しています。 今後も、行政や地域からの参加への働きかけをしていきます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一度は広報誌を持っていくことにより情報交換・コミュニケーションをとっている。府にも開設当初と同様に広報誌を届けている。何かあれば、相談し、都度解決している。	市内第一号のグループホームということで、見学者の受け入れ等、先駆的な役割を果たしてきました。その関係で、市との連携・関係は密になっています。ホームの広報誌は、市や府に届け、情報交換の機会にもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で身体拘束について考える時間を作っている。一時的に拘束が必要な場合には、家族にも現状を説明し、理解を頂いた上で承諾書をもらっている。定期的に必要な性を検討し、継続するかどうか決めている。	身体拘束に関する研修を実施しています。一時的に拘束が必要な時は、家族とも話し合い、会議を開くなどの手順を踏んで実施しています。解除に向けての会議も行っています。 「普通の生活」を大切にする現場は、利用者のありのままを受け入れるケアが浸透しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議でニュースや新聞等の情報を引用し、日々を振り返り、お互いに気を付けるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば外部研修に参加する。必要な方は家族間の問題であると考える為、関わらない。活用を否定もしない。必要な支援は当然行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に十分説明し理解を得られている。変更等は、内容を説明し、署名・捺印をもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に耳を傾け、意見を聞いている。面会簿にも家族からの意見を記入できるようにしている。毎運営推進会議でも、意見要望等聞く時間を作っている。	家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族の面会時には声かけし、言いやすい雰囲気作りを心がけています。ホームでの生活状況が伝わるよう、写真入りの広報誌「けやき」を発行し、家族に送付しています。管理者は、常に「自分が家族だったら」という意識を持つように職員に伝えています。新しく入居された利用者の家族には、入居翌日に、利用者の様子を伝え、安心してもらっています。	面会に見えた家族に意見を書いてもらう用紙を準備されていますが、今後は、ホームとして確認したいテーマに絞り、意見を聞かせてもらう取り組みも検討されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・合同会議を毎月行い、意見交換の時間をとっている。	毎月のフロア会議で職員は意見を出合っています。管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気を大切にしています。また主任は、職員一人ひとりの事情を把握し、働きやすい職場環境作りに努め、職員も定着しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給あり。資格試験受講料 50%施設負担あり。コンサート等チケット代金補助あり。誕生日にケーキのギフト券プレゼントあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば、外部研修等参加させている。フロア会議・合同会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	基本的な考え方が違うため、出来ない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要があれば、家族とは別に面接を行い、本氏の声を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に十分な時間を取り話し合うようにしている。必要があれば、電話相談にも応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所やデイサービス等の利用も含め、何が本氏にとっていいのか検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の型にはめず本氏がその人らしく表現出来るよう一人一人が出来る事を尊重し、支援を行っている。利用者・職員共に笑顔が見られる事を重要点としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見・芋掘り等の行事への参加。面会・外出・外泊等、家族との絆がきれないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	友人等の面会も家族の時と変わらず行っている。本氏や家族の希望は出来る限り協力するようにしている。	<p>馴染みの友人・知人がホームを訪問しています。小学校時代の友達から久しぶりに暑中見舞いが届き、電話をして懐かしい思い出話ができ利用者があります。今後も交流ができるように支援していく考えです。</p> <p>入居時、幼少期から年代別にあったことを記入してもらって、一人ひとりの長い人生に思いを馳せるケアを大切にしています。</p> <p>馴染みの関係の継続のために、利用者それぞれの入居前のケアマネジャーにも広報誌を届けています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	仲の良い利用者には談話の場を作ったり、会話が得意でない利用者には職員が会話を促したり問題発生時には解決に取り組むようにしている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	継続的関りは、家族の問題と捉えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の希望を捉えるようにしている。可能な事は生活に反映させている。	利用者一人ひとりと日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、その人の気持ちを察してケアに活かしています。日常の関わりの中での気づきや発見は、利用者毎の日誌に記録したり、毎月のカンファレンスで情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、幼少期～年代別にあった事を記入してもらっている。これらを基にコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活を記録に残し、フロア会議・カンファレンスにより毎月見直しを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にアセスメント・モニタリングを行い、月1回のカンファレンスで意見交換をしている。結果を介護計画に反映させている。家族に対しては、定期的に説明を行い理解を得ている。日々の記録にプラス面のコメントも記入し、家族へも伝えている。	利用者・家族からの希望を聞き取り、介護計画を作成しています。月1回のカンファレンスで意見を出し合い、モニタリングを行い、見直しは基本的に3ヶ月毎に実施しています。 計画作成担当者は「本人の希望を最優先」する介護計画を心がけています。利用者の「家に帰りたい」という希望の実現に向けた計画も作成しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護・看護・受診・服薬等の記録に加え、数々の情報を連絡帳・回覧簿で共有している。毎月の会議で意見交換しケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに答えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市、行政の意識が低いように考える。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の内科往診、月2回のPT、3ヶ月毎の歯科往診を行っている。希望があれば、入所前の医師の往診も変わらず行ってもらっている。専門医の受診等は、基本家人にお願いしているが、緊急な時や家族だけでは困難な時、支援を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している利用者がいます。通院時は、必要に応じてホームで支援しています。月1回、ホームの協力内科医による往診を行っています。週3回、職員である看護師が勤務し、健康管理を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師が中心となり、職員全員で利用者の体調を把握するようにしている。往診Dr.とは常に連絡取れるようにしている。緊急時には医師の指示を受け、すぐ対応出来るよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が中心となり対応している。入院時には、まめに面会に行き、状態の把握に努めている。変化があれば家人に連絡を入れ、希望があれば、医師の病状説明時にも立ち会うようにしている。入院先の看護師に声を掛け、身の周りの雑用も支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「出来る事・出来ない事」は基本的に決めていて、家族には契約時に説明している。職員にもその都度方針を説明し共有出来ている。	看取りに関する指針を作成し、入居時に本人・家族に説明をおこなっています。希望があれば、ホームでの看取りを実施していく考えです。外部の看取りケア研修にも参加しています。 終末期をホームで過ごされる場合もありますが、結果的には入院されるケースがほとんどです。昨年末、ホームで看取ったケースがあり、最後までホームで生活できたことを家族に大変喜んでもらいました。	看取りの実施に向けての体制づくりの際、マニュアルを作成する時は、職員の不安や整備して欲しいことなど出し合い、現場に即したマニュアルを作成されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議・合同会議で勉強会や実践講習、を行っている。いつでも見られるようにマニュアルも備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。月1回は各フロアにて避難時の言動を確認している。近隣の方へも非常時に協力して頂けるよう話合っている。夜間の連絡体制も整えている。スプリンクラーも設置している。	年2回避難訓練を行い、消防署にも報告しています。避難訓練時には、消防署の協力を依頼していますが、消防署に自主訓練の報告書を提出することで立会いが免除になっています。火災や災害時の利用者誘導を、より安全に効率よく実施するために、職員が各居室入口に「避難済」の札を設置し、全員が確認できるように職員が工夫しています。非常時には、近隣の方の協力も要請しています。 非常災害時の水や食料品等の備蓄も準備しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等でも重ねてプライバシーの保護について注意している。個人情報の取り扱いにも留意し、守秘義務について、職員は十分理解出来ている。	管理者は、「利用者や家族の立場に立った」ケアについて伝えています。また「普通の生活」を現場に浸透させ、排泄時のプライバシーへの配慮や、声の大きさ服の乱れや身だしなみ等、些細なことも考えることの大切さを教えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の会話の中で、その人らしさが引き出せるように努めている。レクリエーション等は、「やりたい事」を選んでもらっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>可能な限り本氏のペースを大切に支援を行っている。強要や無理強いはしないようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>服装に関しては、本氏の好みに合わせて衣類を選んだり、選んでもらったりしている。理美容にかんしては、家族の理解を得て、当施設内にて訪問利用で対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を利用者の前で作り、音や匂いを楽しんでもらっている。会話のきっかけ作りにもなっている。職員はゆっくりとフロアを廻りなるべく自分で摂取出来るよう配置をかえたり、手を動かすよう促したり、済んだ皿を引いたり等支援している。時々、利用者と同じメニューを摂り、味や分量を吟味している。	朝食・昼食はホームで作り、夕食の副食は配食サービスを利用しています。献立は、利用者の好みを取り入れ、職員が作成しています。ご飯の美味しさにこだわり、米は他県から取り寄せています。敷地内の庭園や畑で収穫した栗や柿、芋などを食材にした季節感あふれる食事は、利用者の大きな楽しみになっています。手作りおやつも楽しんでいます。 利用者の重度化により、食事介助の必要な利用者が多くなりましたが、一人ひとりのペースに合わせた介助を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、その人に合わせた形態にて提供する事により完食してもらう事を目指している。水分補給については、糖分・塩分に気を付けた上で、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、月1回の口腔チェックを行い記録に残している。定期的な義歯洗浄を行い歯科往診も3ヶ月に1回行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンを把握するようにしている。パット類は使用するが、トイレでの排泄が出来るように心掛けている。	利用者の重度化に伴い、排泄介助を要する方も多くなっていますが、「排泄はトイレするのが当たり前」との考えを職員で共有し、トイレでの排泄ができるよう介助を行っています。ホームに入所後、排泄リズムをみながらこまめにトイレ誘導することで、自宅ではおむつを使用していた利用者が今ではトイレで排泄できるようになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎日のラジオ体操・歩行運動、便秘の解消に繋がる食事内容にする等、予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせ、ゆっくりとした入浴に努めている。気分がのらない時は、無理強いせず、翌日に変更している。夜間の入浴は対応していない。	体調や希望に合わせてながら、週に2～3回入浴しています。個浴のため一人ひとりゆっくりと入ることができます。反面、リフト等がついておらず浴槽に入ることが難しい利用者も増えてきていますが、シャワー浴をする場合には足浴を同時に行うなど、利用者にとって無理なく入浴を楽しめる工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	状況を記録に残している。不眠等 がある場合には、看護師と相談し、 さらにフロア会議・カンファレンス で検討し、安眠できるように支援 方法を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	内服薬のファイルを作り、全職員 が閲覧出来るようにしている。服 薬の変更時には、加えて連絡帳 にも情報を記入し、すぐに把握 出来るようにしている。変更後 の体調の変化には特に注意して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	行事の小物作りや洗濯物畳み、 壁に飾る塗り絵等喜んで参加し てもらっている。来客を職員に告 げる事を仕事のように感じている 利用者もいる。希望があれば喫 煙も職員の見守りの中、楽しんで もらえる。気候が良い時に限る が、散歩(車椅子使用もあり)に も出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩コースは地域の公園周りにしている。施設内にも池や庭園があり、散歩気分を味わえる他、テーブルを出しお茶やお菓子を並べれば、日光浴・ピクニックと様々に楽しめる。お正月には毎年成田山初詣を行っている。	季節ごとの行事として、初詣やお花見に出かけています。日頃も、ドライブによく出かけ、車窓からの景色を楽しんでいます。また、ホームには池や四季折々の花が咲き誇る広い庭園、野菜などを作っている畑があり、遠方への外出が難しい利用者も外の空気を感じながら楽しめる機会が多くあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者にはお金を所持してもらっており公衆電話や家人への小遣いに使われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば公衆電話等使用対応している。家族の希望により再三の求めには応じない場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画や飾りつけと一緒に作り飾っており、殺風景にならないよう工夫している。利用者が間違いやすい扉には表示をし、分かりやすくしている。	皆で過ごすリビングは大きな窓があり、明るくゆったりと過ごすことができます。廊下には、季節に応じた飾り付けや、昔使用していた生活用具の写真が貼ってあり、利用者の視線を大切に工夫がされています。また廊下の端には机といすが置かれ、隣の小学校の行事に励む子どもたちの可愛い声に耳を傾けながら、窓から見える庭園をゆっくりと眺めて楽しむことができるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル以外にソファを置き、利用者が団らん出来るようにしている。気の合った同士が話しやすいように席を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(家具・小型冷蔵庫・テレビ・ラジオ等)の持ち込みに対応している。利用者の希望はすべて家人に伝えるようにしている。施設の方でも家人との写真を飾る等している。	居室の窓からも外の景色、庭園、プランターの草木等が見られるように工夫されています。それぞれの利用者の好みに合わせ、使い慣れた家具や生活道具(冷蔵庫やラジカセ等)、ぬいぐるみや趣味だったギター、スケッチブックが置かれ、心地よく過ごせるようになっています。また、家族との写真が飾ってあったり、ご本人の希望で仏壇や位牌が置かれ、お一人おひとりが落ち着いて過ごせる場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり等で対応している。居室には表札、トイレには目印をつけている。		